

アート&デザイン大茶会

TEA CEREMONY FASCINATION OF ART AND DESIGN



『おおいた大茶会』をテーマに開催される第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭・おおいた大会を記念し、大分県立美術館では、開館当初より親しまれているアトリウム展示をてがけた三人の作家、マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイによるインスタレーションに特化した展覧会を行います。本展のために特別に計画された展示を通してアートとデザイン、それぞれの分野における第一線の活動をご紹介します。

オランダのデザイン界の貴公子、マルセル・ワンダースは、自身がデザインしたオブジェクトと映像によって「幻想の間」を創り出します。世界的に活躍する日本人テキスタイルデザイナー、須藤玲子は布のオブジェを浮かび上がらせた「触感の間」を創り出します。日本の若手現代アーティスト、ミヤケマイは、インタラクティブな展示により、鑑賞者が作品との対話と反応を楽しみながら思いをめぐらせる「瞑想の間」を創り出します。開館当初から大分県立美術館が目指す、「出会いと五感のミュージアム」。そして国民文化祭のテーマである「大茶会」。この二つのコンセプトのもと、五感にうったえ、人と作品の出会い、センセーショナルな現代版大茶会をお届けします。

上：マルセル・ワンダース《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》2015年 左：須藤玲子《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》2015年 右：ミヤケマイ 大分観光壁《水府 覆水難収・フクスイオサメガタシ》2015年

関連イベント

アーティスト・トーク

本展を彩るアーティストの三人が、今回のインスタレーションについて語ります。聞き手は当館館長新見隆。
日程：6月15日（金）13:30～15:00
場所：大分県立美術館 1階 アトリウム
登壇者：マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ
定員：160名
参加費：無料（要事前申込）

ワークショップ②「石の記憶」

ミヤケマイ氏とともに、アート&デザインの大茶会の鑑賞ツアーをしたのち、聖書などにも出てくる最も古い記述形式である、石に文字や絵を彫るワークショップを開催します。
アート&デザインの大茶会の鑑賞の記憶や想いを永遠に残るメッセージとして、イサム・ノグチが晩年に愛した宮城県の大蔵山の「伊達冠石」に刻んでみませんか？
日時：2018年6月16日（土）10:00～12:30
場所：大分県立美術館 1階 展示室A、創作広場
講師：ミヤケマイ
定員：20名
参加費：2,000円＋展覧会観覧券（要事前申込）

ワークショップ①「さがせ、私の”こいのぼり”」

須藤玲子氏とともに、展示されている「こいのぼり」を双眼鏡でじっくり見たのち、いろんな布を使って自分の「ミニこいのぼり」をつくります。
講師：須藤玲子
日時：6月16日（土）13:30～16:30
場所：大分県立美術館 2F アトリエ
対象・定員：高校生以上一般 20名程度
参加費・材料費：1,000円＋展覧会観覧券（要事前申込）

アーティスト・トーク、ワークショップ申し込み方法

参加ご希望の方は、app@opam.jpへ[件名]にイベント名・[本文]にお名前とご連絡先のお電話番号をご記入の上、お申し込みください。定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

ギャラリー・トーク

日時：2017年6月23日（土）、6月29日（金）、6月30日（土）、7月7日（土）、7月14日（土）、7月21日（土）
金曜日は 16:00-17:00、土曜日は 14:00-15:00
会場：大分県立美術館 1階 展示室A
参加費：無料（参加には当日観覧券が必要、申込み不要）


【会場】 大分県立美術館 1階 展示室A 【会期】 2018年6月15日（金）～7月22日（日）
【主催】 アート & デザインの大茶会実行委員会、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館
【共催】 大分合同新聞社、TOSテレビ大分
【後援】 オランダ王国大使館、大分県、大分県教育委員会、大分県芸術文化振興会議、大分県デザイン協会、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会 大分地区、NHK 大分放送局、エフエム大分、大分ケーブルテレコム株式会社

【特別協賛】  伊藤園

【協賛】 石川隆道

【協力】 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学、オランダ政府観光局、KLM オランダ航空、Museo Alessi、Baocarat、Christofle クリフトル、コスメデコルテ、ASTER、Electronica、Pixie Dust Technologies, Inc.、SHISEIDO THE STORE、Venus Laser 株式会社 /studioTED、ウエダジュエラー、大分県立歴史博物館、大久保文之、大蔵山スタジオ株式会社、株式会社岡井麻布商店、鬼塚電気工事株式会社、カモシカ書店、クウジツ株式会社、幸兵衛齋、佐野文彦、サンワ工務店、しぶや黒田陶苑、株式会社スピン /studioTED、ソニー PCL 株式会社、株式会社ダイカン、株式会社中川ケミカル、日田漁業協同組合、藤野芳徳、馬渡祐佑、株式会社ミラクルプロダクツ /studioTED、諸富京子、山路教司、和傘工房「朱夏」

【助成】

 平成30年度文化庁
文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

公益財団法人 花王 芸術・科学財団

第33回国民文化祭・おおいた2018
第18回全国障害者芸術・文化祭・おおいた大会
おおいだ大茶会
応援事業

第33回国民文化祭・おおいた2018
第18回全国障害者芸術・文化祭・おおいた大会
おおいだ大茶会
応援事業

大分県企業局
県民生活の向上と地域活性化

beyond
2020



〒870-0036 大分市寿町2番1号
Tel: 097-533-4500 Fax: 097-533-4567
JR 大分駅府内中央口（北口）から徒歩 15 分 大分 IC から車で 10 分
http://www.opam.jp

マルセル・ワンダース

MARCEL WANDERS

ファンタジーの贈り物



須藤玲子

SUDO REIKO

踊るこいのぼり

須藤玲子 《こいのぼり》2014年 フランス国立ギメ東洋美術館

2018.6.15 金 — 7.22 日

10:00 - 19:00 ※金・土曜日は20:00まで（入場は閉館の30分前まで）

大分県立美術館 1階 展示室A

〒870-0036 大分市寿町2番1号 Tel: 097-533-4500 Fax: 097-533-4567
JR 大分駅府内中央口（北口）から徒歩 15 分 大分 IC から車で 10 分
http://www.opam.jp



マルセル・ワンダース 《ワン・ミニット・スカルプチャー》2004年
Courtesy of Marcel Wanders

伝統とハイテクの融合

ミヤケマイ 《SHISEIDO THE STORE ウィンドウ》2018年
写真：葉田 倫

ミヤケマイ

モダン 陰陽五行

ミヤケマイ 《もどる場所があるということ》(部分) 2015年

【観覧料】 一般1,000(800)円／大学・高校生500(300)円

・()内は前売および20名以上の団体料金 ・中学生以下は無料
・大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金
・障がい者手帳等をご提示の方とその付添者1名は無料 ・学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。

【チケット(前売券・当日券)販売場所】大分県立美術館、
Iichiko総合文化センター 1F インフォメーション、
大分合同新聞社本社受付・同プレスセンター、
TOSハウジングメッセ、トキハ会館 3F プレイガイド、
豊後プロパン「ビートパワー」、エトウ南海堂、
大分市府内五番街商店街振興組合、大分県芸術文化振興会議、
大分県職員消費生活協同組合、
ローソンチケット(L82006)、チケットぴあ(P769-041)

OpAM
Oita Prefectural Art Museum

マルセル・ワンダース

Marcel Wanders

マルセル・ワンダースは活動するプロダクト&インディレクター。アレッシィ、KLM など数々の企業とのアットやアンダーズなど内装など、1900 を越先鋭的なデザインをマルセルは、デザイが結びつき、人の温もり以来の伝統を蘇らせます。から離れ、いにしへの詩と幻想復活させます。



アムステルダムを拠点にテリアデザイナー、アートパカラ、クリストフル、コーサー、コラボレーション、ハイホテルや商業施設のえる数の仕事を展開し、発信し続けています。ナーと職人と使う人々を形にする「ルネサンス」20 世紀の冷たい工業主義とロマンスを、今日の生活に

大分県立美術館では 2015 年春の開館にあわせて、1 階アトリウムで来館者を迎える卵型のバルーン《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》を制作。



マルセル・ワンダース 《ユーラシアン・ガーデン・スピリット》2015年

オランダ商船が大分の臼杵に漂着したことをきっかけに発展した日蘭交流の歴史からヒントを得て、両国の友好の姿を作品化。華やかなバルーンの柄は骸骨のように見え、17 世紀のオランダの静物画に描かれる骸骨、すなわち「ヴァニタス」(死を想うこと)を表しています。大人も子ども、自由に触れ、花々や虫たちを見つけたり、記念撮影をしたりと、思い思いに楽しむことができる出会いのアートです。

本展では、過去 27 年間のマルセルの仕事のなかから、国際的なブランドとコラボレーションした商品や、最新の映像作品を紹介し、訪れる人々を魔法の旅へといざないます。



マルセル・ワンダース 《サーカス》2016年 アレッシィ・ミュージアム蔵

イタリアの食器メーカー、アレッシィの《サーカス》(2016 年)は、楽しいサーカスの世界とキッチンツールとしての機能を組み合わせた、イマジネーション豊かな限定商品。ドイツのペビーカーメーカー、サイベックスからは、シックな大人のテイストと、子どもが喜ぶポップさを合わせ持つ育児用品を紹介。

日本の化粧品メーカー、コーサーでは、2010 年からコスメデコルテ AQMW のパッケージを、2011 年からは毎年、限定フェイスパウダーをデザイン。現在は店舗デザインや広告ビジュアル等も手がけています。女性の絶えぬ生命力と美を贅え、常識をくつがえす斬新なデザインを提案し続けています。



マルセル・ワンダース コレクション 《コスメデコルテ フェイスパウダー》



マルセル・ワンダース 《Virtual Interiors》2013 年～

バーチャル・インテリア

映像作品《Virtual Interiors》(2013 年～)では、世界のデザインシーンで活躍するマルセルが内に秘めた、哀愁に満ちた儚いファンタジーが、ダイナミックな仮想空間として視覚化されています。

マルセル・ワンダースの驚きと感動、めくるめく夢の世界へようこそ。

※展示作品の一部は予告なく変更される可能性があります。

須藤 玲子

Sudo Reiko



撮影：田村孝介

須藤玲子は、日本を代表するテキスタイルデザイナー。1984 年、株式会社「布」の設立に加わり、現在は取締役デザインディレクターとして、日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術までを駆使した布づくりをおこなっています。2006 年、マンドリンオリエンタル東京のテキスタイルデザインを手がけ、毎日デザイン賞を受賞。これまで制作した布地の数々は、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) をはじめとした世界各国の美術館に永久保存され、今までに無い独創的なテキスタイルの達成により、現代デザインをリードしています。



須藤玲子 《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》2015 年

シャンデリアが、坂 茂の OPAM 建築の目玉でもある巨大アトリウム

須藤玲子は、日本を代表するテキスタイルデザイナー。1984 年、株式会社「布」の設立に加わり、現在は取締役デザインディレクターとして、日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術までを駆使した布づくりをおこなっています。2006 年、マンドリンオリエンタル東京のテキスタイルデザインを手がけ、毎日デザイン賞を受賞。これまで制作した布地の数々は、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) をはじめとした世界各国の美術館に永久保存され、今までに無い独創的なテキスタイルの達成により、現代デザインをリードしています。

2015 年の春、大分県立美術館の新設開館にあわせて、《ユーラシアの庭「水分峠の水草」》を制作。湯布院と玖珠の境となる水分峠は、西の筑後川と東の大分川の分水嶺であり、峰々から集まる水が豊かな河川の流れをつくってきました。この水分峠の清水に浮かぶ水草をイメージしたテキスタイルによる

の空間にほんのりと輝き、来館者をやさしく包み込みます。そこには須藤が思いを馳せる原始の自然への、またユーラシアの森羅万象に対する畏怖と恋慕が表されています。



上：須藤玲子 《このほり》2014 年
フランス国立ギメ東洋美術館

右：須藤玲子 《スイング・口(しかく)》
撮影：Sue McNab



本展のインスタレーションでは、須藤玲子がデザインした約 80 匹ものこのほりが、展示室の空間をダイナミックに泳ぎ回る、驚きの幻想空間に入り込んでいただきます。

須藤は、子どもの健やかな成長を祈る日本の伝統行事に着想を得て、フランスの展示デザイナーのアドリアン・ガルデルとコラボレーションし、米国ワシントン D.C. のジョン・F・ケネディ舞台芸術センター(2008 年)、またパリのギメ東洋美術館(2014 年)、六本木の国立新美術館(2018 年)にて、この作品を発表してきました。きらめく色とりどりのこのほりが、OPAM バージョンとしてやってきます。ぜひ五感を刺激するダイナミックなインスタレーションを体感してください。

ミヤケマイ

Miyake Mai



日本の伝統的な美術や工芸の繊細さや奥深さに独自のエスプリを加え、過去と現在、未来までをシームレスにつなぎながら物事の本質を問う作品を制作。媒体を問わない表現方法を用いて骨董、工芸、現代アート、デザインなど既存のジャンルを問わず、天衣無縫に制作を発

表する。大分県立美術館 (OPAM)、水戸芸術館、Shanghai Duolun Museum of Modern-Art、POLA 美術館、森美術館、世田谷美術館での展示及びワークショップのほか、村越画廊、壺中居、Bunkamura ギャラリーなどで個展多数。銀座メゾンエルメス、慶應大日吉キャンパス来往舎ギャラリーなど、企業や大学でもサイトスペシフィックなインスタレーションを手がける。2008 年パリ国立美術大学大学院に留学。『膜迷路』(羽鳥書店／2012 年)、『蝙蝠』(2017 年)など 4 冊の作品集がある。2018 年 SHISEIDO THE STORE のショーウィンドウのアートディレクターに就任。京都造形芸術大学客員教授。



ミヤケマイ 《必然》2013 年 写真：紫田諭

現代の大茶室

本展では、希代末聞のインタラクティブな大型のインスタレーション作品＝「茶室」が OPAM の展示空間に現出します。感覚に訴えるインタラクティブなこの展示は、鑑賞者が何かを汲み取り、行動することによって出会う時間の流れや、人間を模倣した一本の筒としての迷路のような空間を創り出します。また、「茶室」は、それを構成する五行(*)を一度分解し、鑑賞者の体験を通して脳内で再構成してもらう空間となります。ここにしかない、驚きと五感を刺激する作品との出会いをぜひ体感ください。



ミヤケマイ
(SHISEIDO THE STORE ウィンドウ)
2018 年 写真：紫田諭

* 陰陽五行。自然界に存在する物質は「陰」と「陽」の要素から成立すると唱えた「陰陽説」と自然界に存在する物質は「木」「火」「土」「金」「水」の五元素に由来すると唱えた「五行説」が一体化し、古代中国で成立した、茶道とも関係性の深い、自然哲学の基礎概念。



2



1



3



4

大分観光壁

「観光」とは、「光を観て、地域の命に出会う」こと。

美術家ミヤケマイが、世界は紛争に向かいつつあると警告し平和を願う作品「世界は届けい・セカイハトドケイ 大分の中心で家内安全を叫ぶ」(1)や見えそうで見えない現代版大和絵巻「もどる場所があるということ」(2)、水をテーマにしたインタラクティブな体験型の作品「水府 覆水難収・フクスイオサメガタシ」(3)、大分の伝統的な切子灯籠による現代版依代「おかえりなさい」(4)など、大分の文化風土をテーマにした大型のインスタレーションを大分県立美術館 (OPAM) の 1 階アトリウムに展開しています。